

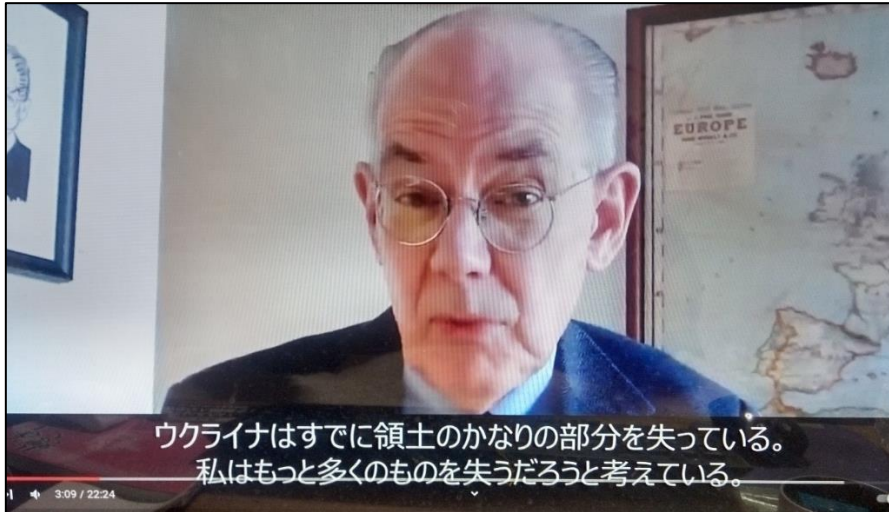
1月6日のウクライナ情報

安齋育郎

①プーチンは戦争を望んでいなかった ~ジョン・ミアシャイマー教授 - ウクライナとガザの紛争について(2023年12月19日)John Mearsheimer Interview(日本語字幕)

※安齋注:昨年12月中旬段階でのミアシャイマー教授の見方です。参考にして下さい。

<https://youtu.be/oPOYafzdYFQ>



<https://www.youtube.com/watch?v=oPOYafzdYFQ>

②ウクライナーロシア捕虜交換(2024年1月4日)

【帰還したZ兵士】

赤いお鼻のロシア兵: すごく嬉しい。支援してくれた国に家族ともども感謝します。もちろん、私たちの最高司令官ウラジーミル・ウラジミロビッチ、本当にありがとうございます。

キラリとした若い兵士: 捕虜交換で私たちが出迎えられたとき、スマホとSIMカードをもらって、すぐにベルゴロドの知事が電話をくれました。それと私たちが温かい食事が取れるようにと、お弁当と水、お茶をもらいました。すぐに栄養補給しました。

「家族に電話しろ」って、スマホをもらいました。

家族も、私たちが捕虜交換で帰ってくると伝えられていました。詳しくは聞いてなかったけれど、私たちから電話が来るだろうと言われていたそうで、私たちは家族に電話しました。

何だかとっても不思議な気分。



<https://twitter.com/i/status/1742733827527917594>

③フィギュアスケーターのアリーナ・ザギトワが、2024年3月に予定されているロシア大統領選挙への出馬表明(2024年1月5日)

フィギュアスケーターのアリーナ・ザギトワが、2024年3月に予定されているロシア大統領選挙への出馬を決めたプーチン大統領との連帯を認めた。

「ウラジーミル・ウラジーミロビッチ・プーチン大統領は、常にスポーツを支持してきました。私はそれを高く評価しています」とザギトワは語った。



<https://twitter.com/tobimono2/status/1742988071858213107?s=09>

④ハリコフ強制動員(2024年1月4日)

<https://twitter.com/i/status/1742568032248168793>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1742568032248168793?s=09>

⑤ ホワイトハウス、ウクライナを支援する資金はもうない(2024年1月4日)

ホワイトハウス国家安全保障会議の戦略コミュニケーション調整官ジョン・カービー氏によると、米国にはもはやウクライナに新たな軍事援助パッケージを提供するのに十分な資金はないという。

同氏によると、最後のパッケージは12月27日に発表され、それで終わりだと同氏は付け加えた。決定は米国議会次第だという。議会議員が同額の援助を提供することに同意するかどうかはまだ分からない。

カービー氏によると、米国が軍事援助パッケージを承認するたびに数日、場合によっては数週間の遅れが生じるため、最新のパッケージに含まれる兵器はすべてウクライナに届けられていないという。

<https://twitter.com/i/status/1742866429425459663>



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1742866429425459663?s=09>

⑥プーチン大統領は末期ガンやパーキンソン病ではなかったのでしょうか？(2023年12月29日)

<https://twitter.com/i/status/1740322781235933618>



※別のツイッターのコメント:さらに、重度の認知症、糖尿病も聞こえて来た記憶があります。

満身創痍の中、国のリーダーとして立派な仕事していますね w

※さらに別のツイッターのコメント:報道 1930 などで専門家の先生方がクソ真面目な顔でプーチン大統領の重病説に関して真剣に議論をなされておられた場面を何度も拝見致しましたが、欧米かぶれの皆様方こそが陰謀論者の最たるものであると断言したとしても、決して過言ではないのではないのでしょうかと言わざるを得ないわけなんです w

<https://twitter.com/neconomesu/status/1740649017758167328?s=09>

※安齋注:次のようなニュースもありましたっけ。

匿名 SNS 発の「プーチン死亡説」に世界の大量メディアが飛びつく理由
「プーチンは心停止、今は影武者が代行中」と詳報、専門家は「真に受けるな」
2023.10.29(日)
(国際ジャーナリスト・木村正人)

「大統領は今晚バルダイの大統領邸で死亡した」

[ロンドン発]暗号化メッセージアプリ「テレグラム」の匿名チャンネル「対外情報局(SVR)将軍」は 26 日「注意！今この瞬間、ロシアで“クーデター”が進行中だ。ウラジーミル・プーチン露大統領は今晚、ロシア北西部の保養地バルダイの大統領邸で死亡した。モスクワ時間午後 8 時 42 分、医師は蘇生を中止し、死亡を告げた」と速報した。「SVR 将軍」によると、医師団はプーチン大統領の遺体が横たわる部屋でロシア連邦警護庁のドミトリー・コチュネフ長官の個人的な命令で大統領警護官に拘束された。コチュネフはシロビキ(治安・国防関係の国家主義者)の実力者、ロシア連邦安全保障会議のニコライ・パトルシェフ書記と連絡を取り、指示を受けている。大統領府の警備は強化されている。

「積極的な交渉が行われている。プーチンの死後、ドッペルゲンガー(影武者)を大統領にすり替える試みはクーデターだ」(SVR 将軍)。

翌 27 日には「昨日午後、プーチンの健康状態が急激に悪化し始めた。午後 8 時ごろ、当直医が医師団を追加召集し、到着 15 分後にプーチンの蘇生処置を開始したが、その時点で危篤状態に陥っていた」と詳報した。

<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/77664>

⑦原伸一の戦況情報(2023年12月30日)

ロシア側によれば、前半部はリヴィウの戦車工場へのロシア軍ミサイルの着弾、その後に住宅地近くに着弾しているのはウクライナ軍の外れた防空ミサイル。

※安齋注:この「ウクライナ軍の外れた防空ミサイル」というのは曲者で、ウクライナ側は結果として生じた住宅地などの破壊をロシアのせいにする事例が少なからずありました。

<https://twitter.com/i/status/1740976767970766895>

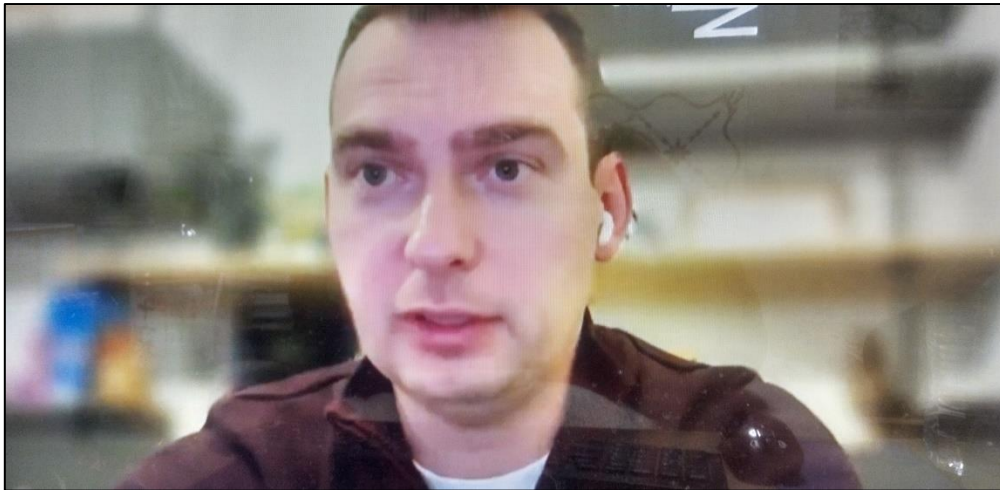


<https://twitter.com/GyotokuShogi/status/1740976767970766895?s=09>

⑧ヤロスラフ・ジェズニャク ウクライナ最高会議議員の話(2023年12月30日)

現在、動員のためのお金はありません。50 万人を動員するには約 5,800 億円が必要ですが、このお金はありません

<https://twitter.com/i/status/1740941903171092838>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1740941903171092838?s=09>

⑨米元国防長官高級顧問ダグラス・マクレガー退役米軍大佐(2023年12月29日)

2024 年は、ワシントンの支配層の権力と金をめぐる戦いにおいて、アメリカ人は単なる観客に過ぎない(かった)事を知る年になるかもしれない

アメリカを脅かしているのは、中国でもロシアでもイランでも、その他の大国の組み合わせでもない
ワシントンがアメリカ人、歴史、文化、アイデンティティーに戦争を仕掛け、国境も開放し、アメリカの軍事力に過度に依存している(してきた)事こそが、米国民と世界にとって最大の危機だ (米ワ●ントン支配層は日本に多大な迷惑をかけている)



<https://twitter.com/Junika2022/status/1740616209748692998?s=09>

⑩ブリンケン国務長官の弁(2023年12月30日)

プーチンはウクライナを地図から消し去り、ロシアに吸収するという主要目的を遂げられず、ウクライナに敗北した。

戦場では厳しい 1 年が過ぎた。繰り返し言うがウクライナは誰も想像しなかった不可能なことをやり遂げた。

<https://twitter.com/i/status/1740934590246924435>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1740934590246924435?s=09

※あるツイッターのコメント: ブリンケンはバカじゃない!

※別のツイッターのコメント: バカを騙そうとしているだけ。

※別のツイッターのコメント: ウソくらいメモ読まずに話せないか! それともネオコン専属のスピーチライターの作文か?

⑪ゼレンスキーによればマリウポリは消滅したというが(2023年12月29日)

しかし現実にはマリウポリはロシアと共に繁栄している。

<https://twitter.com/i/status/1740593674415997142>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1740593674415997142?s=09>

⑫平和への最大のチャンス、ウクライナ和平合意を壊したのは誰か 交渉当事者から新証言相次ぐ「ロシアを追い詰めろ」が生んだ悲劇(共同通信公式、2024年1月5日)

※安齋注:このニュースは、沖縄のひめゆり平和祈念資料館の普天間朝佳館長からも伝えられてきました。こういう情報が出るようになりましたね。



https://twitter.com/kyodo_official/status/1743078223532199971

(記事内容)

平和への最大のチャンス、ウクライナ和平合意を壊したのは誰か 交渉当事者から新証言相 次ぐ「ロシアを追い詰めろ」が生んだ悲劇(一般社団法人共同通信社によるストーリー)

長期戦の様相を呈し終わりの兆しの見えないロシアのウクライナ侵攻。しかし、開戦直後の2022年3月、双方の直接交渉により和平の最大のチャンスが訪れていた。最近になり交渉参加者の新たな証言も加わり、早期和平を望まなかった欧米の思惑が交渉崩壊の一因となったとの構図が浮かび上がってきている。(共同通信=太田清)

▽楽観論が支配

ロシアとウクライナ代表団の和平交渉は2022年2月28日、ウクライナ・ベラルーシ国境で始まり、その後、ベラルーシ領内やオンラインによって断続的に続いたが、ハイライトは3月29日、トルコが仲介してイスタンブールで開かれた直接対話だった。

イスタンブールでの交渉終了後、両国側から交渉結果について楽観的な発言が相次いだ。

ロシアのフォミン国防次官は信頼醸成措置として、首都キーウ(キエフ)と周辺などでの軍事作戦を大幅に縮小すると声明。実際にロシア軍は、後に市民の虐殺があったとされるキーウ近郊ブチャを含むキーウ州からの撤退を開始した。ウクライナのゼレンスキー大統領は「前向きなシグナルだ」と評価。仲介役のトルコのチャブシオール外相(当時)も「重要な成果があった」とした上で、ラブロフ、クレバのロシア・ウクライナ両国外相の会談が2週間以内にも実現する可能性があると言明した。

ロシア代表団の団長を務めたウラジーミル・メジンスキー大統領補佐官は「ウクライナ側が初めて、ロシアとの正常な関係構築に向けての提案を文書で行ってきた」とした上で「今後、(両国の)首脳会談の可能性があると示唆。ラトビアに本拠のある独立系ニュースサイト「メドゥーザ」によると、ウクライナ側は交渉でウクライナのNATO加盟断念と引き換えに、同国の安全保障の枠組み構築を含めた10項目を提案。同枠組みは米国、英国、中国など国連安全保障理事会5常任理事国(P5)に加え、イス

ラエル、ポーランド、トルコなど関係国との間で策定し、各国議会が批准。P5、関係国はウクライナが他国から攻撃を受けた場合、飛行禁止区域設定などの協力を提供するとしている。焦点のロシアが占拠したクリミア半島の主権については今後15年間の協議で解決するとした。

米国家安全保障会議(NSC)の欧州ロシア担当上級部長を務めたフィオナ・ヒル氏は、米外交専門誌フォーリン・アフェアーズで、ロシア、ウクライナ両国は(1)ロシア軍が侵攻前の地点まで撤兵、(2)ウクライナはNATO加盟放棄を約束、(3)NATO加盟の代わりとして、関係国により今後の安全を保障される一ことを柱とした和平合意で暫定合意していたことを明らかにした。先のウクライナ提案を基にした合意とみられる。

一方、プーチン・ロシア大統領は2023年6月17日のアフリカ諸国との首脳会談で、暫定合意したとされる18項目からなる和平文書を首脳らに見せた上で「(合意に基づき)ロシア軍がキーウ(キーウ)周辺から撤退した後に、ウクライナが一方的に合意を破棄した」と主張した。では、なぜイスタンブール交渉後、和平への機運が急速に失われることになったのか。

▽ロシアの関心

交渉から一年以上たった2023年11月、ウクライナ交渉団を主導した同国与党「国民の奉仕者」議員団代表のダビド・アラハミア氏が民放1プラス1の人気トーク番組(同月24日放送)に出演し、「ロシアが求める中立化を受け入れれば戦争は終わっていた」と交渉の中身を明らかにした。同氏によると、交渉でロシアが最も関心を持っていたのは「ウクライナが中立の立場を受け入れ、NATOに加盟しないこと」だった。「彼らにとって最重要事項で、ウクライナの非ナチ化やロシア語の公用語としての保証は表面的な要求だった」という。

▽英国首相の訪問

番組ホストのナタリヤ・モセイチュクさんが「なぜ合意しなかったのか」と尋ねると、アラハミア氏は一瞬の沈黙の後、「第一に憲法改正の必要があったからだ」と応じた。ウクライナは2019年、NATO加盟を「国是」として憲法に盛り込んでおり、加盟放棄の場合、同条項を修正しなければならない。

同氏はさらに「ロシアが合意を100パーセント守るとの確信がなかった」とした後、直後にジョンソン英首相(当時)がキーウを訪問し「英国はロシアとどんな合意も調印する気はない。共にロシアと戦おう」と主張したことが交渉崩壊の一因だったことを明らかにした。

さらに「複数の西側同盟国が(NATO加盟とは異なる)一時的な安全保障に合意しないよう」ウクライナに助言したとも語った。ジョンソン氏はイスラマバード和平交渉翌月の4月9日、キーウを予告なしに訪問し、ゼレンスキー大統領らと会談していた。ウクライナ紙「ウクラインスカ・プラウダ」は2022年5月5日、ジョンソン氏がゼレンスキー大統領に「プーチン大統領は戦争犯罪者であり、交渉相手ではない」「もしウクライナがプーチン氏と安全保障文書で署名するつもりでも、西側はしない」とのメッセージを伝えたと報じていたが、今回のアラハミア氏の発言はこうした報道を裏付けるものとして注目された。

同紙によると、ジョンソン氏がウクライナ訪問を終えた3日後には、プーチン大統領は「ウクライナとの交渉は袋小路に陥った」とこれまでの楽観的な見方を一変し、交渉が崩壊したことを示唆した。

▽独元首相の証言

和平交渉に関して明らかになった、もう一つの証言がシュレーダー元ドイツ首相のものだ。同氏はプーチン大統領との親密な関係が知られ、政界引退後には一時、ロシア国営石油最大手ロスネフチ会長も務めた。今回の和平交渉では、ロシアとのパイプ役を期待され、ウクライナ側の依頼で仲介役を務め、プーチン大統領とも会談した。シュレーダー氏は2023年10月21日のドイツ紙ベルリナーツァイ

トウングとのインタビューで、和平交渉がほぼまとまっていたにもかかわらず「ウクライナでの消耗戦を続けさせることでロシアをさらに弱体化させることを望む」米国が合意受け入れを拒否したと語った。拒否の背景には、ロシアは弱体化しており、今がロシアを追い込むチャンスだとの米国側の誤算があったという。2022年4月初めに明らかになり、ウクライナ側が態度を硬化させたことで、和平交渉崩壊の原因にもなったと指摘されるブチャの事件の影響については、「平和交渉の大半が、ブチャの事件が明らかになる前に終わっていた」と指摘した。

▽拒否できなかった

米英の反対があったとしても、ウクライナだけで単独でロシアと和平合意を結ぶことはできなかったのか。

アラハミア氏のインタビューが波紋を広げた翌日の11月25日、ウクライナの人気ニュースサイトで政権批判で知られる「ストラナUA」はインタビューに関する長文の論評を掲載した。この中で、同メディアは、ウクライナ政府が主張し、広く信じられているブチャ事件の影響について、ゼレンスキー大統領自身が事件発覚後、交渉継続の必要性を唱えていたことを指摘、影響は決定的ではなかったと主張した。その上で「(ウクライナが必須と考えた)自国への安全保障について、ロシアや中国だけが行い、(米英など)NATO諸国が拒否すれば、ウクライナと西側諸国との間の完全な関係断絶につながる。ゼレンスキー大統領はそんな行動はとれなかった」として、当時の米英の対応が交渉に決定的影響を与えたと断定した。

最新の世論調査で半数近くの国民が戦争について「交渉を通じての解決策模索」を求めていることが判明したが、同メディアは「(交渉当時と比べ)現在はウクライナの交渉上の立場は悪くなった」とのアラハミア氏の言葉を引用し、ロシア軍撤退はもはや望めず、ウクライナの選択は長期間に及ぶ戦争の継続か、現在のロシアの支配地域を認めた上での停戦しかなくなったとの見方を強調した。

▽数十万人が救われたはず

ロシアの歴史学者メジンスキー氏は「ロシアの歴史・文化は西欧のそれと比べ全く劣っていないどころか、優れている」とする国粹主義的発言を発信することで人気を博し、プーチン氏の信任を得て文科相などを歴任、ウクライナとの和平交渉団長との大任を任された。同氏はアラハミア氏の証言を受け11月28日、「もしゼレンスキー大統領が当時、和平合意に署名していれば、数十万人の自国の兵を救えただろう」と主張、ウクライナと、同国に合意拒否を働きかけた米英を批判した。